

写真で綴る 第71回定時総会

福引会

当選おめでとうございます！

表彰式

功労・敬寿・研究会精勤者に表彰状・証書を授与

特賞
当選THE PREMIUM GIFT
JTB ありがとうプレミアム
「JTX」コース
厚木市 木村 聡先生

高橋 利之先生



菊地 千宏先生



白木 桃子先生



伴 孝先生



懇親会



▲(左から) 横浜市医師会・戸塚武和会長、神奈川県病院協会・吉田勝明会長、相模原市・椎橋誠子健康福祉局医療政策担当部長、小田原医師会・武井和夫副会長、神奈川県精神神経科診療所協会・赤塚英則会長

功労者表彰

評議員30年表彰を受けて

横浜市南区 洞澤 繁

天文の世界では人間の一生を天文のレベルで換算する際に、土星の公転周期を例えとして使うことがしばしばあります。公転周期とは太陽の周りを一周する時間のことですが、土星は約30年かかります。

つまり、私たちの地球の1年という公転周期の30倍近くの長い時間なのです。

私が評議員を引き受けたのは30年前のことになるので、その間に土星が1公転したということになります。人間が生きられる時間は、土星の公転が3周するかしないかの90年前後ですから、30年間評議員をしていたということは人生の三分の一、土星の1公転の間、評議員をしていたことになります。

評議員の役割を十分理解もせずに、地区代表位の軽い気持ちで引き受けさせていただいたのは、本当に申し訳ないと反省しております。私は自由な気風の中高一貫校に運よく入学した時から、出版物の作成の面白さに没入し、部活動以上に活動してきました。保険医協会の入会後も部活動の延長のように、いろいろな部会でチラシやポスター、ミニパンフレットなどを自由に作らせていただきました。

評議員としての著明な役割はできていませんが、今後も保険医協会という開業医の医療を支える団体の潤滑油の一部として、不真面目ではありますが、活動できたらと考えています。今回は表彰ありがとうございました。



敬寿会員表彰 (70歳)

目指せ！百歳長寿会員

横浜市旭区 相澤 扶美子

七十歳敬寿会員表彰を頂き、嬉しく思っています。なんと百七十九名中の一。今年度から長寿会員表彰ではなく、敬寿会員表彰と名称を改められたとのこと、これも同世代が元気に現役で働けている証拠かと思えます。

旭区で夫とともに三十五年前に開業、人生のうち半分は開業医です。開業当初は困ったことがあるたび協会に電話し、アドバイスを頂きました。開業時は一番上の長女が小学一年生、三番目の長男が一歳、三人の子育てと仕事の両立を目指し、アレルギーのある長女に症状が出たらすぐ対応できるよう、自宅・職場・保育園・小学校を徒歩十分圏内に決めました。幸い、実際に駆けつける状況にならずに済みました。その子どもたちも今や全員結婚・独立、孫は七人です。子育てが一段落した四十五歳でボウリングを始め、週三回はボウリング場に通う日々、百歳現役小児科医、百歳長寿ボウラーを目指しています。診療報酬改定があるたびに協会にお世話になりますが、これからもよろしくお願いします。



研究会精勤証授与

すぐに役立つ知見が得られる場

横浜市都筑区 村田 眞

積極的に保険医協会の研究会に参加するようになったのはコロナ禍以降だと思う。それまでも会場に足を運び直接講師の方の声を聞きながら知識を習得していたが、やはりWEB開催が主流となって気軽に受講できるようになると自然に回数も増えた。あわせて近年の医療界へのデジタル化が普及することで、今までの臨床が大きく変化していくのを感じる。この点も研究会にとっても助けられている。一方で医療管理の原点というべき施設基準にもなっている深山先生の研究会は何度も聴講させていただき、緊急対応などその度に気を引締めて診療にあたっている。

このようにすぐに臨床に役立つ知見を得られることが大きな聴講意欲の源となっている。さらに、糖尿病や高血圧などの他科の関連したテーマや、医療経済・倫理観を扱った研究会もとても興味深い。このように意図的に回数を伸ばしてきたのではなく、結果的にこうなっているのである。今後も有意義な研究会を期待します。



敬寿会員表彰 (80歳)

開業医32年間在宅医療の推移

横須賀市 野村 良彦

「かかりつけ医」、「地域医療」、「在宅医療」を旗印に開業して32年が経過した。開業当初から、第二世代在宅医のプライドと理念をもって突き進んできた。2000年から介護保険が始まり、医療・看護・介護の垣根がなくなり、病気を持った在宅患者の人生を医療面から支え、最終的に家で看取ることが在宅医の役割と心得てきた。しかし、市場原理に基づく介護保険と国民皆保険を維持してきた(在宅)医療保険は、整合性に欠けるものであった。厚労省は「それを是正するため」と言いつつ、在宅クリニックの大規模化を勧め、オンライン診療も是としてきた。それが顕著になったのは、在宅医療専門診療所が認められ、地域の外来診療なしのクリニックに所属する第四世代在宅医が増えるようになってからである。

こういう現状の中でも、私は80歳の敬寿会員となり、一勤務医師として変わらぬ理念の在宅医療を提供しつづけている。私の80歳は、医療者としての通過点であり、終活開始年齢だと捉えている。

